

ずしし環境会議 ニュース

第5号

2003年5月

発行 ずしし環境会議 (エコリーダーズ会議)

事務局 逗子市環境部環境管理課
逗子市逗子5-2-16
TEL 046-873-1111 内線256

市民まつりにて「ずしし環境会議」の活動をPR

昨年10月20日の市民まつりにおいて、ずしし環境会議(エコリーダーズ会議)の活動報告についての展示を行いました。当日は“雨天”との予報も見事に外れ、多くの方々に御来場いただき、初出展という不安とプレッシャーを乗り越えて、まずまずの成果をあげることができました。

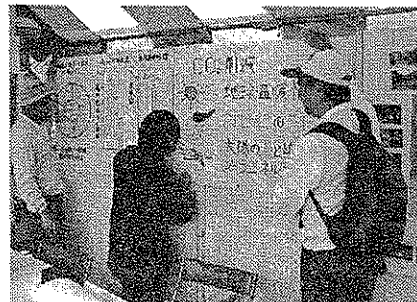
市民まつりへ初出展

ずしし環境会議は発足からもなく3年目を迎え、活動内容も充実してきたことから市民まつりという大舞台へ出展することを決意しました。初出展ということで不安と期待を胸に抱きながら入念な準備を進めてきました。



水槽展示用の魚とりに奮闘中!

ずしし環境会議には、「まちなみと緑の創造部会」、「ごみ問題部会」、「二酸化炭素削減部会」の3部会がありますが、今回の展示にあたって“身近な環境について知ってもらおう”という共通認識をもち、テント設営から展示、広報紙の配布、来場者への説明まで3部会で協力して対応しました。



協力して展示

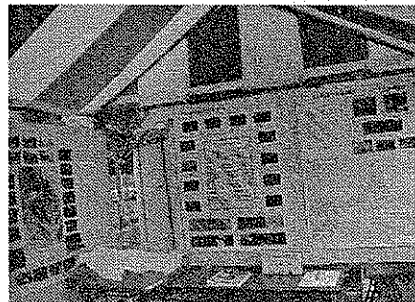
展示内容

今回の展示を行うにあたって、“見た目に楽しい”展示となるよう留意しました。「ちょっとのぞいてみようかな」と市民の皆様に関心を寄せていただけるような展示となるよう各部会において趣向を凝らしました。



来場者に部会員が説明

「まちなみと緑の創造部会」では、名越谷戸の地形模型や田越川生物の展示、「ごみ問題部会」では容器包装の価格表示と実物の展示、「二酸化炭素削減部会」では、太陽光と風力発電システムの展示を行い、実物を見て少しでも興味をもっていただけるようにしました。

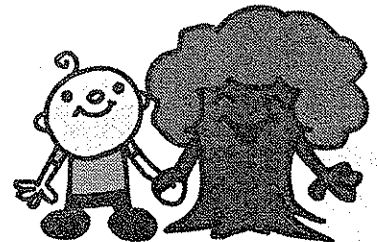


展示風景

今後に向けて

今回は市民まつりという大きなイベントにおける展示であり、一般の人々に少しでも環境について関心をもっていただくという主旨で臨んでまいりました。各部会の工夫の甲斐あってか、大人の方から子供さんまで幅広い年齢層の方々が足を運んでくださいました。

今回の成功に慢心することなく、次回の市民まつりへの出展に向けて日々の活動に力を入れていきたいと思っております。



■入会申込み・お問合せ

ずしし環境会議では年1回の総会のほか月1回程度の会議を通して様々な環境問題に向けた取り組みを行っています。多くの方の御理解と御協力を賜り、今後さらに幅広い活動を展開していきたいと思っております。多くの方のご参加をお待ちしております。

—事務局—

環境部環境管理課

TEL 046-873-1111 内256

FAX 046-873-4520

まちなみと緑の創造部会

当部会は、「逗子のまちなみと緑を次世代にどのように伝えるか」をテーマとして活動を続けています。逗子の現状認識を共有するために、実際の場所を見て歩き、そこで発見したテーマや課題について意見交換をしながら、環境の改善に向けて必要と思われる調査・観察・提言や講演会の開催などを行っています。その成果を市役所1階ホールや「市民まつり」で、パネル展示・田越川生物の水槽展示・名越谷戸の地形模型展示等により、環境への認識を喚起してきました。

■逗子の原風景を伝えよう

平成14年度は、「名越谷戸市有地の里山緑地化」を最重要課題として取り組んでいます。名越谷戸（久木9丁目付近）は逗子市西部において、最も原風景をとどめている地域のひとつといえるでしょう。

現在では、田越川をはじめ各地区の河川は源流までコンクリートで被覆され、せせらぎの響きも遠く、祖先が開拓した全ての集落地に田んぼが無くなり、溜池も現在では池として、僅かに残るのみ、畑地も減り、昔を偲べる先人の足跡・風景は殆ど無くなってしまいました。

当市が首都圏に近く宅地化が進むのは宿命とは言え、昔から住んでいた人々も、新しく市民となった人々も共に「逗子に祖先の生活と文化が偲べる環境」を子孫に残すことが、現代に生きる我々の責任だと思えます。「名越谷戸市有地」は僅かに残った逗子の貴重な原風景です。

当部会では、名越谷戸市有地の里山緑地化について、下記の提案をしています。



■今後の活動予定

私たちの活動も3年目を迎え、目に見える成果を徐々に実現し、出来るだけ多くの市民の発意と行動のもとに、合意形成を築いていきたいと考えています。

既に全市域や各地区で活動をなさっている様々な市民の方がいらっしやいます。そうした方々との連携を持ち、必要な場合には行政等のバックアップも得ながら、次世代に伝える「まちなみと緑の創造」を図っていききたいと思います。

今後の活動テーマとして

- ・名越谷戸の里山緑地化
- ・逗子の顔づくり
(海岸、田越川、里山、歴史的環境)
- ・ハイキングコースの見直し
- ・逗子市環境マップの作成
- ・総合的学習連携支援
等を考えています。

皆さんの参加をお待ちしています。

◇◇◇名越谷戸の自然と里山の原風景の保存活用について以下のような提案をしています◇◇◇

●提案



「名越谷戸市有地」は、逗子において失われた原風景に触れる機会を提供し、また、小中学生には総合的学習の教材にもなる「里山緑地」としての保存と活用を図る。そのために、自然環境の保全や里山体験をできるプログラムづくりと、必要最小限の施設整備を行う。

●例えば

- ①溜池周辺の生態系の保全
(水質・生物・環境など)
- ②自生植物の保護
(ジャヤナギ、ヘビイチゴ、キョウブ、樹木など)
- ③昔の風景(生活)などの再生
(田んぼ・畑・水車小屋・せせらぎ、古老からの伝統技法・生活の知恵等の伝授、昔の生活環境再現、田畑の耕作体験等)
- ④必要な施設の整備
(簡素な説明板・標識板の設置、散策路整備等)

その他、多くの市民が利用でき、静かで憩える環境を整える。

●実現に向けてのプログラム

- ①専門的な調査に先立ち、平成15年度より市民レベルの「基礎的調査」を行う。(観察、水質検査、草木の分布、生息生物・周辺環境調査等)
- ②行政・学校関係者・学識経験者・古老・事業者・市民等が協力して、案の作成と保全・活用・整備に向けての推進体制づくりを図る。
- ③里山緑地の運営管理について、市民や団体にその運営・管理・保全等を委任するアダプトプログラム(里親制度)等の導入を検討する。

ごみ問題部会

昨年11月から市内全域で紙類・布類の資源化回収が始まりました。しかし、市民の皆様にはその趣旨や分別方法がまだまだ浸透しているとはいえず、課題が山積みだといえます。ごみ問題部会では、この問題解決のために分別方法のPR等を積極的に行っていきたいと思っております。この現状がいち早く改善し、分別回収によって燃えるごみがどれだけ少なくなるか大いに期待しています。結果が出次第、電光掲示板を通じてお知らせいたします。では、今年2月14日に開催した「エコ商店街見学ツアー」、昨年の市民まつり等での報告をお伝えします。

エコ商店街見学ツアー

平成15年2月14日にエコ商店街2ヶ所の見学会を行いました。

①伊勢佐木町商店街

この特徴は、ごみプロジェクト委員会を設置し、資源物回収日には各商店の店主が交替で回収ステーションの当番となって、資源物持参者にエコチケットを配布しているところです。また、マイバック利用者、ノー包装協力者、また飲食店にてマイ箸の持参者にもエコチケットを配布しています。その他にもペットボトルの回収機の利用者もエコチケットがもらえます。



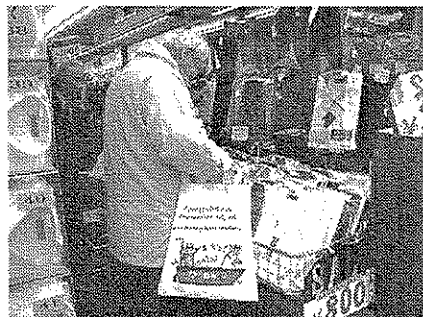
ペットボトル回収機

エコチケットは景品と交換したり、金券として商店街での買い物等に使えます。商店街全体で力を合わせて、地域活性化と環境問題の両面に取り組んでいる様子がひしひしと伝わってきました。



②モトスミ・プレーメン通り商店街

ここは環境先進国ドイツのプレーメン市にあるロイド・パサージュ商店街と友好提携を結んでいます。商店街ではマイバックキャンペーンに力を入れており、布製のマイバックを輸入し、販売しています。このマイバックはプレーメン市の子供達がデザインしたもので、かわいらしく大変好評です。

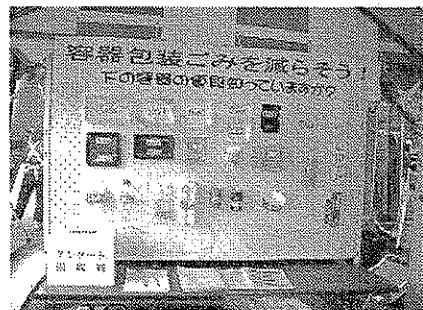


マイバックで買い物

また、お客がレジ袋を断ると、店側が浮いたレジ袋の経費分を民間基金「神奈川子ども未来ファンド」に寄付しています。商店街が未来の子供を支えようという試みです。未来を見据えたこのような商店街の取り組みは、私たちのまちにおいてもおおいに学ぶべきものがあります。

市民まつり報告

「包装容器ごみを減らそう！」をテーマに包装容器の価格を展示しました。「包装容器リサイクル法」が施行され、包装容器はリサイクルされるからと安心してしまっている人も多いでしょう。でも、包装容器って意外と高価なのですよ！



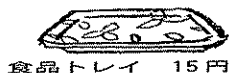
包装容器価格の展示

容器にお金を使わないためには詰替用商品、リターナブル容器使用商品、量り売り商品などを買うよう心掛けることが大切です。

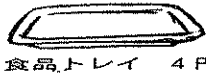
当日実施したアンケート結果にも「詰替用があれば、なるべくそちらを買うようにしたい。」と答えた方が93%も占めました。

現実的には詰替え商品を買おうと思ってもなかなか難しいのですが、消費者の要求で生産者も変わっていくものです。声に出していくことも大切なのではないのでしょうか。

容器のねだん・知っていますか？



食品トレイ 15円



食品トレイ 4円



カップうどん 60円



カップラーメン 40円



卵パック 5円



歯みがき(中身150g) ラミネートチューブと外箱 23円



飲料用紙パック 1ℓ 10円



飲料用紙PETボトル 2ℓ 62円・1ℓ 47円



シャンプー用ポンプ式ボトル 137円



飲料用スチール缶 350mℓ 28円

飲料用アルミ缶 350mℓ 28円

1997年版より転載しますので少し古い資料ですが、参考になると幸いです。

〔環境庁および日生協の資料より〕

二酸化炭素削減部会

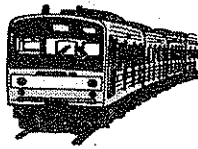
当部会は、11名のメンバーで構成され、月1回程度の部会、環境月間や市民まつりでのイベント等への出席を中心として活動しています。現在は金沢・池田両踏切の遮断時間の調査と、遮断時間短縮に向けた取組みを中心として進めています。また、太陽に恵まれた環境を生かそうとの立場から、太陽光発電普及のための活動や、大気汚染の要因の一つである二酸化窒素濃度の測定など、私たちができる身近な問題を取り上げて報告と提案をしてきました。今後も逗子市の環境改善に向けて精力的に取り組んでいきたいと思っています。

「金沢」及び「池田」踏切の遮断時間の短縮について

金沢・池田両踏切遮断機は、現在、ラッシュ時(7:00~8:00)において、1時間のうち約40分間は遮断機が下りている状態であり、ひどい交通渋滞を引き起こしています。これを少しでも緩和するために、私たちは2年間かけてその実態調査を行い、その結果に基づいて実現の容易な改善案をここに提案させていただきます。

■遮断機開閉の制御方法

鎌倉方面からの「下り電車」及び東逗子方面からの「上り電車」の場合、それぞれ金沢・池田踏切の数100m先にセンサーがあり、そこを電車が通過すると、遮断機が下りた状態、いわゆる“閉”の状態となり、電車が踏切を通過し終わるまでの約1分30秒間は“閉”のままです。



一方、逗子駅から発車する電車の場合、上り、下りとも人が電気信号を送って両踏切の遮断機と連動させるいわゆる人為操作です。この時は、踏切が“閉”となってから電車が踏切を通過し終わるまでの時間は、両踏切とも、約2分30秒で、電車が駅に停車している時から遮断機はすでに“閉”の状態です。

■増結車接続の操作

増結車が車両本体に接続のため東逗子方面から移動中、金沢踏切はもちろん“閉”ですが、踏切を通過して数mの所で必ず一旦停車(数秒)します。その後再発車し、逗子駅ホーム中央寄りに設置してあるセンサーが車両を感知して、初めて遮断機が“開”となります。増結操作のための遮断機“閉”の時間は、約1分20秒です。

■今後に向けて

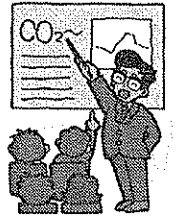
私達は、この2年間「金沢」及び「池田」踏切における深刻な渋滞問題と正面から取り組んできました。その間、市の関連部門と協議を重ねた上で、JR側の担当者とこれまで度々話し合いの場を設け、若干の改善が見られるようになりました。今後も以下の提案をもとに市と協力して、JR側と交渉していきたいと思っています。

提言Ⅰ：遮断機“閉”時間の統一

逗子駅からの発車の時も、なぜセンサー制御の約1分30秒にできないのか？

提言Ⅱ：増結車用センサーの移設

現在、増結車と遮断機を連動させているセンサーを増結車一旦停車位置まで移設する。(移設距離20m)これにより、増結のための遮断機“閉”は約20秒短縮される。(現在は、1分20秒)



環境パネル展開催

今年度も環境月間イベントの一環として「環境パネル展」を開催します。ずしし環境会議(エコリーダーズ会議)の日頃の活動内容を各部会ごとに趣向を凝らして展示します。ぜひお越しください。

期間：6月16日(月)~20日(金) 場所：市役所1階市民フロア

■まちなみと緑の創造部会

- ・水棲生物展示
- ・名越谷戸ジオラマ模型展示
- ・「大崎の磯」写真などの展示
- ・海風荘跡地利用について

■ごみ問題部会

- ・容器包装と価格展示
- ・マイバックキャンペーン
- ・市内商店における包装の現状
- ・市内不法投棄地図の展示

■二酸化炭素削減部会

- ・踏切における遮断の現状
- ・太陽光発電パネル展示
- ・市内CO₂、NO_x量の調査結果
- ・喘息罹患率の動向

編集後記

★ずしし環境会議ニュース第5号は、「市民まつり」初出展のご報告を中心にお届けしました。

★ずしし環境会議の活動も3年目を迎え、会員数も増えて活動範囲も広がり、内容もより充実したものとなりました。

★みなさまの環境問題に対するますますのご理解とご協力、ずしし環境会議の活動へのご参加をお願い申し上げます。

編集委員 鈴木嘉一・齋藤 稔・谷 守弘